

琉球アスティーダスポーツクラブ (7364)

増収・赤字縮小、継続企業の前題に関する注記あり。飲食・スポーツ減収。サロン事業の成長が赤字縮小に貢献。増資実施による経営再建を目指す。

TOKYO PRO Market | 娯楽施設 | 業績フォロー

BLOOMBERG 7364:JP | REUTERS 7364.T

- ・ 通期売上高は前期比1.7%増、最終損失は赤字縮小で着地。債務超過継続、継続企業の前題に重要な疑義あり。2月に第三者割当増資を実施。
- ・ 祖業のスポーツ関連事業と飲食店は減収、サロン事業の増収が赤字縮小に寄与。
- ・ 県内インフレが消費圧迫も外食支出増、観光客数増加・回復と、外部環境良好。

What is the news?

2025/2/28発表の2024/12通期業績は、売上高が前期比1.7%増の5.8億円、最終損失が前期9千5百万円から当期9千万円となり、増収・赤字縮小で着地した。本決算期末にて6.4億円の繰越欠損金を計上し、純資産が▲3.2億円の債務超過にある。本決算において継続企業の前題に関する重要な疑義についての注記が付された。

事業セグメント別では**スポーツ関連事業**の売上高が前期比40.1%減、セグメント損益が1.1億円（前期1千9百万円）の赤字拡大。**飲食事業**の売上高は前期比13.9%減、セグメント損益が2千7百万円（前期8.9百万円）の赤字拡大。主要事業が減収・赤字拡大となる中、**アスティーダ・サロン事業**の売上高は前期比180.5%増の2.4億円、セグメント利益が同197.4%増の1.69億円と、全社での赤字縮小に貢献。

2025年3月に一株1,000円にて新株22,000株発行、資本金組入総額1千1百万円の第三者割当増資を行った。続いて、4月2日に追加の第三者割当増資を行い、普通株式50,000株を一株1,000円にて新規発行した。

How do we view this?

2025/12通期の会社計画は、売上高が27.6%増の7.5億円、営業利益が22百万円、最終利益が19百万円での増収・黒字転換を目標としている。

2024年沖縄県内の消費者物価指数でみた食料品価格上昇率は年4.9%と全国平均4.3%より急進したが、二人以上世帯による外食支出（年平均）は実質ベースで前年比5.6%増（名目ベース8.6%増）と堅調に推移しており、他の食品価格上昇に圧迫された減少は見られない。沖縄県への日本人観光客は2024年中753万人（前年比3.96%増）、外国人旅行客は計213万人（同116.2%増）と堅調に推移。昨年12月中の外国人観光客数は20.4万人を記録し、コロナ前の同月水準を初めて更新。トランプ関税の懸念を除けば外部環境は良好であり、事業再建には追い風である。

業績推移

事業年度(12月期)	2021/12	2022/12	2023/12	2024/12	2025/12F
売上高 (百万円)	474	500	579	589	751
経常損益 (百万円)	(135)	(212)	(94)	(89)	19
当期純損益 (百万円)	(134)	(265)	(95)	(90)	19
EPS (円)	(94.41)	(177.10)	(59.06)	(55.98)	10.0
PER (倍)	-	-	-	-	69.7
BPS (円)	29.0	(88.2)	(147.3)	(88.2)	-
PBR (倍)	24.2	-	-	-	-
配当 (円)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
配当利回り (%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(出所：会社公表資料をもとにフィリップ証券作成、F=会社予想)

フィリップ証券株式会社

配当予想 (円) - (会社予想)
 株価 (円) 700 2025/3/31 (基準値)

会社概要

■2018年2月にベンチャー起業家である早川周作氏により沖縄県の卓球プロスポーツチームである「琉球アスティーダ」の経営を目的として設立。社名は「アスリートが明日の太陽（ていだ）となることを目標に」という理念に由来する。2021年3月30日にTOKYO PRO Marketに上場。子会社に九州アスティーダ株式会社がある。

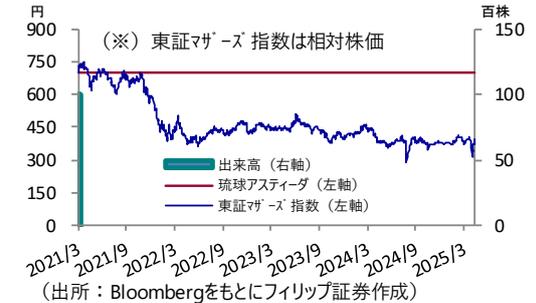
■現在の主要セグメントは『スポーツ関連事業』、『飲食事業』、『アスティーダサロン事業』の3つである。プロスポーツ経営と他事業とのシナジーを創出し、沖縄・九州地域に根ざした循環型ビジネスの構築を目標とする。

■『スポーツ関連事業』は、スポンサー収入、プロ卓球リーグのTリーグ分配金およびホームゲームによるチケット販売による興行収入、卓球教室運営や物販、ファンクラブ、YouTubeチャンネル広告などの関連収入を含む。

■『飲食事業』は、卓球台併設型の沖縄料理飲食施設「バルコラボ」を中心とした複数ジャンルの飲食店を、直営またはフランチャイズで展開。バルコラボは琉球アスティーダのファン交流の場も兼ねており、スポーツ事業とのシナジー創出を目指している。

■『アスティーダサロン事業』は2023年に会員制の経営者限定コミュニティサロンの運営事業として開始した。会員メンバーからの会費を収入源とする。

株価推移



主要株主 (2025/3/31発表)

株主名	(%)
1.早川 周作	53.33
2.佐野 健一	5.28
3.MTG投資事業有限責任組合 無限責任組員 株式会社MTG Ventures	3.70

(出所：会社公表資料をもとにフィリップ証券作成)

*株主および保有比率は事業年度末日（12月31日）のものであり直近の増資による変化を反映していません。

リサーチ部

三角 友幸

tomoyuki.misumi@phillip.co.jp
 +81 3 3666 0707

笹木 和弘

kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp
 +81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元：フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者：リサーチ部 三角友幸

公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として本レポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、本レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則（平 14.1.25）」に基づく表示>

1. フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。
2. フィリップ証券は、東京証券取引所の定める「特定上場有価証券に関する上場規程の特例」（以下「特例」）第 102 条の規定または福岡証券取引所の定める「特例」第 102 条の規定に基づき、発行会社の担当 J-Adviser または F-Adviser、あるいはその両方に就任する旨の契約を締結いたしております。また、フィリップ証券は、東京証券取引所の定める「特例」第 135 条または福岡証券取引所の定める「特例」第 135 条に定める流動性プロバイダーであり、発行会社株式の円滑な流通の確保に努めるほか、流動性プロバイダーとしての義務を負っています。